

# 乙島東社協だより

## 「親父の小言」



会長 小野 貢

平成二十九年度の行事も皆様とともに楽しく遂行することが出来ました。

一つ一つの行事を振り返ってみると、行事の実施にかかわっている方も、参加して提供を受けられる方も、いずれの皆さんも会話と笑顔が会場にあふれていました。

また、あらためて心強く感じたことは、積極的に行事を手伝い・協力できる方が、地域のなかに、多くおられて、これからの活動が楽しみです。

さて、先日、ずいぶん前回の旅行の写真を整理していると、その時に土産に買った一本の手ぬぐいが出てきた。その手ぬぐいに「親父の小言」という題で、「朝はげんきよくしろ」、「貧乏は苦にするな」、「人には腹を立てるな」、「家内は笑ふて暮らせ」、「恩は遠くから返せ」、「難渋な人にはほどこせ」など三十五、六の小言が書いてある。

最後には、一回り大きい字で、「親の小言と冷酒は後で効く」と書いてある。

笑えそうで笑えないものばかりである。

ところで、私たちは、日々をどのような気持ちで送っているのだろうか。また、どんな心を持って人に接しているのだろうか。「向こう三軒両隣」という、もう死語になり

かけている言葉がある。この言葉こそ地域のコミュニティづくりの基本だと思えます。お互いが声を掛け合うことから支え合う関係が生まれてくるのではないのでしょうか。

これからも支え合い・助け合いのできる環境づくりに皆さんと一緒に努めていきたいものです。

## 総会 & 福祉講演会

### 「楽に動いて、健康に！」

平成二十九年度の総会が、五月二十八日(日)に、乙島憩いの家で、わかちあいの会 西森数穂会長ならびに社協 玉島事務所 田口哲男所長にご臨席をいただき開催されました。

昨年度の事業及び決算報告につづき、本年度の事業計画及び予算について了承され、無事おえることが出来ました。

総会につづいて、健康運動実践指導者の中山和佳子先生による「楽に動いて、健康に！」という講演と模範運動の提示があり、軽い運動を試みました。

中山先生は若い時からのスポーツウーマンで、年齢を聞いて、びっくりするほど若く見え、生き生きとされていました。

同居のご高齢で、何でもやりたがる元気な義父様の様子を話され、私たちに、年齢に応じた、やってはいけないこと、すすんで行うようにすることなどを、力をこめて話

された。

また、私たちが楽に貯筋できる工夫された体操や動きを紹介してくれました。

「楽に動いて」という言葉につれられて身体を動かしたが、多くの人が、声をあげながら、頑張っていました。健康寿命を延ばすには、日頃から横着をせず、こまめに身体を動かす努力が必要だと、思い知らされました。

## ふれあい フェスティバル

### 「体育館に熱気と歓声」

九月二十四日(日)午前九時より乙島東小学校体育館で開催した。

学区内にある町内会を東西南北の四チームに編成しての競争である。

幼児から高齢者まで二百人を超える参加者で賑わった。館内競技のため、老若男女、誰でも参加できる種目が多かった。



また、会場西側の通路では、愛育委員のミニ健康展や相談コーナーがあり、高齢者らは競技の合間に測定や相談に行ったり来たりして、健康を考えさせられる一日でもあった。

この日も、若いPTAの役員さんの思考の賜物である。そして、プログラムの最後は、良寛音頭と良寛ばやしで館内は狭しとばかり、二重三重の輪になって楽しく踊って打ち上げた。

## グラウンド・ゴルフ

### 「みんな友だち」

十一月五日(日)乙島東小学校校庭で「ふれあいグラウンド・ゴルフ交流大会」が行なわれた。初めての大会でもあり、天気心配であったが、雲一つない絶好のスポーツ日和のなかで、五十名弱の参加者がともにプレーを楽しんだ。

グラウンド・ゴルフは初めてという方が十名ほどおられたが、慣れてくるうちにホールインワンをする人もいて、仲間から祝福の拍手や「おめでとう」と声を掛けられ、大変うれしそうに喜んでいました。

なかにはお孫さんと一緒に一つのボールを交互に打ち、ホールポストへ入れる微笑ましい光景もあった。

そして、ここで初めて顔を合わせる人も、終わってみれば「みんな友だち」になっていた。この交流がますます大



きな輪となり、地域の「活性化」に繋がればと強く感じました。

また、当日は「わかちあいの会」の設立三十周年記念品として寄贈されたテント一張を張ってお披露目をしました。誠にありがとうございました。

## もちつき

### 「一足早い杵の音響く」

十二月十日(日)に「乙島憩いの家」の東側広場で実施した。

天気予報で午後からの天気は下り坂と言われていたので、役員らは早朝から、次々と集まった。

午前七時には、もう準備も整い、蒸し始めた。

開始の案内は午前八時であったが、一番白の米が蒸しあがったので、もちつきは始まった。青年団の手伝い人も加わり、威勢良く、また順調に進み午前十一時頃にはつき終わった。

親子連れの子も達も、もちをついたり、まるめるたびに楽しそうに、にぎやかな声が響いていた。



一般の来訪者やお手伝いの人を加えると百名を超える人であった。

また、当日は地域内の独居

高齢者の六十名にご案内をした。参加できなかった高齢者には民生・児童委員が訪問して手渡しました。

# 乙島東 社会資源マップ



2017年9月 現在

乙島東小学校区	世帯数	1,739世帯
	人口	3,897人
	高齢化率	26.1%

(倉敷市住民基本台帳人口月報より表示)

発行：乙島東学区  
小地域ケア協議会

● ⑥ 乙島の森 (運動公園)

## 防災連絡会議

「備えあれば、憂いなし」

この会は各町内の会長や防災担当者らの連絡会である。地域内の企業(中電、クラレ)からも、「防災や減災の取り組み」の様子、また市の危機管理室から「地域の危険性」や「減災と避難」などの指導をいただきながら会を重ねてきた。

結局、一番大切なことは「各自が自分の身を守る」ことである。それには日頃から、非常時に備えた、身の回りの環境を整えておくことであり、さらに、隣近所としっかりと良い関係をつくっておくことが大切である。

さて、私たちの地域は、戸島神社が鎮座する丘陵地を除きすべてが液状化の可能性のある地盤である。しかも、その丘陵地の裾の一部が、土砂災害の発生区域になっていることを知っておかなくてはならない。

ところで、市が指定している津波や洪水災害による避難所は「乙島小学校」であり、津波や洪水以外の災害の避難所は「乙島東小学校」である。そこで、洪水や津波時には、できるだけ早く、近くの高いところにも避難することである。だから、地域のなかでは、とりあえず丘陵地の「戸島神社」(海拔二十八M)、JFE社宅(十一M)、天理教浅養分教会(十五M)が「一時の避難所」として適切と思える。そして、そこまでの避難経路は大地震を想定して、いくつかのルートを各自が見つけておくことである。

ちなみに水玉ラインの橋脚の強度は神戸大震災程度にも耐えられる補強が来ているそうである。

「災害は忘れたころにやってくる」南海トラフ大地震の襲来の確率は年々高くなってきています。備えあれば憂いなしです。心と物の準備もしておきましょう。

「備えあれば、憂いなし」